

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 21 年 5 月 14 日 (2009.5.14)

【公開番号】特開 2007-262248 (P2007-262248A)

【公開日】平成 19 年 10 月 11 日 (2007.10.11)

【年通号数】公開・登録公報 2007-039

【出願番号】特願 2006-89788 (P2006-89788)

【国際特許分類】

C 0 9 D 175/04 (2006.01)

C 0 9 D 5/02 (2006.01)

C 0 9 D 5/28 (2006.01)

B 0 5 D 7/24 (2006.01)

D 0 6 N 3/00 (2006.01)

C 0 9 D 133/00 (2006.01)

C 0 9 D 161/24 (2006.01)

C 0 9 D 183/04 (2006.01)

C 0 9 D 163/00 (2006.01)

C 0 9 D 161/28 (2006.01)

C 0 9 D 123/12 (2006.01)

C 0 9 D 123/06 (2006.01)

C 0 9 D 177/00 (2006.01)

C 0 9 D 127/12 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 175/04

C 0 9 D 5/02

C 0 9 D 5/28

B 0 5 D 7/24 3 0 2 T

B 0 5 D 7/24 3 0 3 H

D 0 6 N 3/00

C 0 9 D 133/00

C 0 9 D 161/24

C 0 9 D 183/04

C 0 9 D 163/00

C 0 9 D 161/28

C 0 9 D 123/12

C 0 9 D 123/06

C 0 9 D 177/00

C 0 9 D 127/12

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 3 月 27 日 (2009.3.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 8】

比較例 1 ~ 3

上記実施例 1 ~ 4 と同様にして上記の材料を下記表 1 に示すように固形分比率でそれぞ

れ配合して４種の水系艶消しコーティング剤を得た。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２９】

上記実施例１～４および比較例１～３で得た各コーティング剤をポリ塩化ビニルシート（以下、ＰＶＣシートという）上に１２０メッシュのグラビアプリンターを用いて塗工し、１２０で２分間ギヤオープンで乾燥することによって被膜を形成した。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３０】

上記実施例１～４、比較例１～３で得た表面に被膜を形成したＰＶＣシートについて、均一塗工性、漆黒性、真空成形性、耐薬品性、耐光性等の性能テストを行った。その結果は表１に示した。なお、これらテストの評価方法および評価基準は次の通りである。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３５】

【表１】

	実 施 例				比 較 例		
	１	２	３	４	１	２	３
水系ポリウレタン樹脂分散液（PUD-1）	100	100	100	100	100	100	100
架橋アクリルビーズ（平均粒径 $2\mu\text{m}$ ）	80	—	100	—	—	—	350
架橋ウレタンビーズ（平均粒径 $2\mu\text{m}$ ）	—	150	100	180	—	—	—
シリカ粉末（TS-100）	—	—	—	10	10	20	—
シリカ粉末（E-220A）	—	—	—	—	20	—	—
架橋剤（E-04）	8	10	12	10	4	10	10
均一塗工性	○	○	○	○	×	×	△
漆黒性	△	○	○	○	△	△	△
真空成形性	４	５	４	４	３	３	２
耐薬品性	４	４	５	４	１	４	３
耐光性	４	４	４	４	３	３	３

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３６】

上記表１から、この発明で得た水系艶消しコーティング剤を用いてＰＶＣシート上に形成した被膜は何れも良好な結果を示した。これに対して比較例１～３による被膜は、均一塗工性、漆黒性に劣り、また真空成形性、耐薬品性、耐光性にも劣っていた。